会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和４年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第5回運営委員会 |
| 開催日時 | 令和5年2月14日（火）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル貸会議室 |
| 出席者 | 委　　　員：岡村　慎一、成底　敏、泉田　優、柳田　祐大、  小田　政江、猪股　昇、松田　義弘、  山根　大助、氏部　正（OL）、槇　裕美（OL）  計10名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　 　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計12名 |
| 議題等 | ・今回は、この1年間に実施してきたことの振り返りとなります。なお本日お配りしている資料で、2月16日開催予定の実施委員会も説明します。そのあたりも配慮してお意見頂戴できればと思います。（成底）  １．コンテンツ開発ならびにセミナー実施（成底）  (1)知識系分野学習用動画コンテンツの追加  ・目的は、専門スタッフとして身に付けておくべき知識の動画コンテンツを開発し、インターネットを通じて「いつでも、どこでも」学ぶことができる体制を整備することを目的としました。  本年度は、   1. 情報公開の必要性をテーマとして一般社団法人専門職高等教育質保証機構　事務局長　江島　夏実様にビデオの作成を依頼し納品済みとなっています。 2. 職業教育のマネジメントの有用性（採用（調達）・配置・評価）として三菱総研　久保寺様にビデオの作成を依頼し納品済みとなっています。 3. 私立学校法改正（社会からの要請・改正の必要性）は、法案未審議により今回は作成なし結果となりました。   ・私立学校法改正については、次年度以降にコンテンツを作成し、e-learningに載せることを検討しますか（松田）  ・次年度からは文科省事業として当会の事業が採択されるかまだ分かりませんし、このコンテンツを作ることが計画に入れられるかもはっきりしていません。また、私立学校法が制定したとしても運用までには少し時間がかかることが予測されますので、少し様子を見て検討していきたいと思います。（成底）  ・情報公開については、今回は必要性を理解してもらうことをテーマとしましたが、募集面などもテーマとしてコンテンツ作成は考えますか。（氏部）  ・これは、各校の事情もありますので、セミナー等での事例紹介などに集約したいと思います。（成底）  (2) 学校運営管理責任者セミナー実施状況（成底）  ・東京会場は、令和4年11月28日（月）～29日（火）に参加者26名（2日目24名）で無事に終了しました。  ・福岡会場は、令和5年1月23日（月）～24日（火）に参加者24名で無事に終了しました。  ・事後のアンケートも実施済みで、やはり小山学園さんの発表内容に興味を持たれる学校が多かったです。  ・私立学校法の件について、今回菊田様にご登壇いただいたものも大変参考になりました。（山根）  ・このようなセミナーについては、継続的に全専研で開催していただきたい。（槇）  ・小山学園さんの事例は、東京の学校ということで大変参考になった。その反面、あのような素晴らしい教育を地方の学校にどのように取り入れていくのかをしっかりと情報交換したい。（松田）  ・当校も情報公開セミナーで学生の成長過程の見えるかについて発表させていただきました。この件は当校ばかりでなく皆様方にも積極的にご参加いただき、いろいろな角度から検討出来たら良いと考えています。（小田）  ・皆様の意見を取りまとめて、次年度以降も教育開発研究委員会で積極的にセミナーを開催したい。（泉田）  (3)e-learingマネジメントシステムの構築（猪俣）  ・現在12のコンテンツでテスト運用を開始しています。特にビデオ終了後のテスト問題の内容・ボリュームおよび運用などの適切性について調整しています。  ・このプロジェクトの参加校に対しては、IDを発行しますので、是非１，２人の方には検証にご協力をお願いします。  ・また、今後は解説用のビデオ作成と専門学校にe-learningを周知するためのパンフレットを作成します。  ・今回、確認テストの問題は作成させていただきました。ただこれだけで足りているのかが不安に思います。また、出題の形式はランダムで出題されるのでしょうか。（柳田）  ・出題は、ランダムになります。あとは時間配分等が問題だと考えています。（猪俣）  ・修了証はどうなっていますか。（岡村）  ・視聴後のテストで一定の正解をもって修了証を出せるシステムにはなっています。あとは基準が決まれば実施できます。（猪俣）  (4)申請業務効率化アプリ開発（猪俣）  ・現在モックを配布し、皆様方に実際にお使いいただいています。  何か、問題点か調整点がある場合には、お知らせいただきたいと思います。  ・具体的に申請を担当していらっしゃる先生には、是非ご意見をお願いします。（成底）  ・このアプリで、どのような効率化が図られましたか（松田）  ・アプリについては、開発を進めますがそもそも申請書がワードで作られている課とExcelで作られている課あること等の根本的な様式作成方針の一貫性がないこと等は、文部科学省に提言していけるのではないかと考えています。（成底）  ・このアプリが使えるようになるには、少し時間がかかります。このアプリを公表するのか、どのように公表するのか、混乱が起きる可能性がないかなども文科省と検討しないとならないと考えていましす。（岡村） |
| 配布資料 | 第5回運営委員会資料 |

以上